

目標達成計画

作成日: 平成30年1月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	報告・連絡・相談がなされておらず、ユニット会議等で決まったことが、職員間で共有されていないことがある。	決まったことに対して、「わからない」「聞いていない」などの発言がないよう、わからないことは聞いたり、お互いに声かけし協力し合う。	その日の出勤者が責任を持って連絡ノートに記載する。わかりやすく記載する。また、出勤したらその連絡ノートにまず目を通し、確認する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	他者との交流ができず、孤立している利用者がある。同じ言葉を繰り返し、次第に大声になるため、他利用者はうんざりしたり、不穏になったりする。孤立する利用者は職員と1対1だと穏やかなことが多いが、他利用者が集まると表情固くなる。	利用者の性格や思いを理解し、状況に応じて他利用者と接点を持てるように職員が介入する。	・孤立し、寂しさから訴えが多くなったり、職員が介助している別の利用者に手が出たりするので、本人の近くに寄り添いケアをする。必要とされている自覚を持てるよう役割を見つけたり、かまって欲しい気持ちを汲み取る。 ・職員は心にゆとりを持って利用者に接する。	12ヶ月
2	48	無表情で会話もなく座っているだけの利用者があり、もっと張り合いや元気ある生活を送れるよう支援する必要がある。	職員が間に入り利用者同士が楽しく会話できる場を設ける。	職員自身がゆとりを持って利用者に接し、こまめに声かけしていく。まずは明るい挨拶から始める。	12ヶ月
3	41	利用者の食事量が全体的に少ない。完食する利用者が少ない。	声かけや介助で摂取量を増やすことができる。	食べやすい形状で提供すると共に、食事中も会話を楽しみ、食事が楽しい時間となるよう話題を提供する。	12ヶ月
4	26	職員と計画作成者等とで意見や感じ方の相違がある。また、利用者の状態が変わってもケアプランが変更されておらず現状に沿っていないことがある。	利用者ともっと関わり、利用者が何を求めているか見出す。	担当職員が、それぞれ利用者に関わる時間をもち、情報や気づきをケアプランに生かせるよう、職員同士で共有し、今後のケア方針について計画作成者と相談する。	6ヶ月
5	27	職員間での情報共有ができていないことがある。時々「知りません」「わかりません」との言葉が返ってくる。	報告・連絡・相談の徹底。	出勤したら、必ず日誌に目を通し、気づいたことがあればそのままにしておかず、職員同士相談しながらケアに当たる。	1ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。